

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 22 日

事業所名 戸次なごみ園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			基準に即したスペースを確保しており、特性に合わせた環境を整えている。ホールや個室、園庭を使い分けている。	園庭やしきりのないホール、個別対応可能な個室等々の特性やその日の利用人数に応じて、互いに良好な関係を保ちつつ思いきり遊んだり安心して過ごすことができるよう、使い分けていく。また、子どもの成長に伴い、遊び方等関わりも工夫しながら怪我等のないよう対応していく。
	2	職員の配置数は適切である	100%			基準より多めの職員配置にしている。休みや会議等で不在の職員がでることがあっても対応できる。	基準より多くの職員を配置し、個別対応も含めて質の高い手厚い支援を提供できる体制を整えている。突発的な行動や状況にも臨機応変に対応できるよう、職員が声を掛け合う等密に連携して関わっていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			段差がない構造にしている。車いす用のスロープやトイレ、各所に手すりを整備している。視覚支援を活用しつつ、刺激となりそうなものは可能な範囲で取り除いている。できるだけしきりはなくし、動きやすいように。	柱の角など危険箇所には、安全ガードを施しているが、子どもがはがすことがあるため、その都度確認して対処する。苦手な玩具や物がある利用児が登園する時は目につかないような場所に移動する等環境を整えた。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%			その日のミーティングや職員会議で支援の振り返りを行っている。毎朝のミーティング、毎月の職員会議、業務日誌を活用しての引き継ぎと情報共有を行い、密に連携をとっている。改善して取り組んだことは必ず振り返りを行い、必要に応じて修正等している。	その日不在の職員に対して、検討した内容を詳しく伝えていくことを徹底する。常に職員間で情報共有しているが、業務日誌に大事な項目をより詳しく記載して連携を密にする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			行事の後アンケートをとり、次回に繋げるようにしている。意向やニーズについては、送迎時や聞き取り(面談)にてうかがい、前向きに検討したり折り合いがつかない点を探す等して臨機応変に対応している。できないことは理由をしっかりと説明している。	今後も自己評価表アンケートで得た意見を踏まえて検討し、できるだけ迅速に前向きに対処していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			集計してホームページや事業所内掲示で公表している。	公表結果をホームページやコドモンを活用して周知し、ニーズに対して迅速に対応して、今後もよりよい運営を築いていく。意見が出た場合は、全職員で検討していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	75%	25%		外部評価は実施はしていないが、法人全体で第三者委員は設置しており、万が一、何かあった時にはすぐに対応できる体制は整えている。	第三者による外部評価としてはまだ実施していないが、他事業所の評価の情報共有をしながら全職員で十分検討し、改善していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			法人全体の研修以外に、事業所内研修も行っている。法人内研修や事業所内研修をはじめ、外部研修にできるだけ参加できる機会を設けている。自身の休みを利用して取り組んでいることもある。参加した研修を事業所に持ち帰って周知する等も行っている。	事業所内の研修だけにとどまらず、外部研修も意識して、当事業所にとって必要な内容の研修をできる限り受講できるようにしていく。今まで参加できていない外部研修にも積極的に参加できるようにしていく。また、コロナ対策のZoom会議にも対応していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			日々の送迎や都度の電話相談等にて保護者からの聞き取りをして、取り組み計画を作成している。子どもとのやりとりや保護者からの聞き取りから意向やニーズを把握し、課題や伸ばしていきたいところを一緒に確認しながら話し合っ計画を作成している。	ニーズや課題を整理・分析をして、具体的に取り組む放課後等デイサービス計画を明確に伝えていくようにする。今後も職員間で日々の支援の振り返りを行い、課題やニーズを検証して利用計画に反映させるようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75%	25%		個々に応じて、保育経過記録表などのアセスメントツールを利用しながら取り組んでいる。アセスメントシートや発達検査を基にケース会議にて支援の方向性や具体的な支援方法を検討して実施している。	保育経過5領域記録表の実践に取り組み、その子の成長を検証していく。また、療育センターなどで検査した発達検査（WISCなど）の結果も踏まえて、今後の支援に取り組んでいく。今後も職員間で日々の支援の振り返りを行い、課題やニーズを検証して対応方法を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			毎月職員会議にて、翌月の活動プログラムの立案・計画に取り組んでいる。季節感や利用児の個性に即した内容になるように気をつけている。	活動の細かい部分については利用児で話し合ってもらい機会を設ける等意欲的に(積極的に)参加できるように工夫も試みた。今後、マンネリにならないようにいろいろな情報や知識を駆使して、季節感や子どもの個性や能力、好きなことに応じて内容を展開していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			前年度実施分を参考に、利用児の個性や好きなもの・実態等に即した内容をベースに、細かいところで変化をつけたり等固定化しないように意識して実施している。また、利用児と一緒に考えて決める等意見を取り入れるようにしている。	今後も利用児の特性、得意なことや好きなこと等に視点を向けて、充実感があり満足できる活動プログラムを設定していく。また、利用児同士の話し合いで出た意見を取り入れていくことも継続し、「自分たちが楽しむためにはどうしたらよいか？」等積極的に考えていける場を設けていきたい。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を きめ細やかに設定して支援している	87%	13%		課題や目標については 子どもたちの状態や状 況を見ながらミーティ ングや職員会議時に話 し合って設定し、支援 を行っている。また、 長期休暇時にしかでき ないお出掛け等を実施 している。	平日と休業日での利用児の様子や疲労感等も異なると思 われる為、そのあたりも考慮しながら実態に即して課題 を検討・設定していく。特に、健康管理や体力向上を踏 まえて、体を動かす活動（例：散歩、追いかっこ、野 球やサッカー等のボール遊び）を取り入れていく。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団 活動を適宜組み合わせ放課後等デイ サービス計画を作成している	100%			毎日のプログラムの中 に個別活動と集団活動 を取り入れて対応して いる。それぞれの活動 の様子を観察→検証 し、職員間で話し合っ て計画を作成してい る。	個別活動では個々の能力や特性、好きなものをよく観察 して把握し、本児が興味のある活動や遊びを提供してい く。集団活動では季節感を感じる活動を取り入れている が、利用児の意欲や能力に加えその時の状況(例：疲労感 等)を踏まえて活動の修正を図る等工夫をして取り組ん でいく。特に、細かい作業等指先を使う制作活動は、 個々の状態に応じて工程を設定する等配慮する。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せを し、その日行われる支援の内容や役割分 担について確認している	100%			毎朝のミーティングで その日の流れや注意ポ イント等を必ず確認し ている。また、毎日倫 理綱領を唱和し、支援 の向上に努めている。	利用児の動きや傾向についてある程度想定し、いくつか のパターンを考えて準備しておく。また、担当や配置等 職員の動きもできるだけ詳細に設定する。登園後も利用 児の様子や状態を見ながら関わり等を考え、臨機応変に 対応できるように今後も心がけていく。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを し、その日行われた支援の振り返りを行 い、気付いた点等を共有している	100%			日々の支援を振り返り 、内容を業務に記入 している。また、職員 全員が回覧し、押印確 認をしている。	支援終了後の送迎や清掃等の関係で就業時間終了までの 時間が少なく、支援の振り返りに十分な時間が確保でき にくい為、翌朝のミーティングにて振り返りの時間を設 けている。利用児の様子だけではなく、どのような支援 を提供したのか？結果はどうだったか？等を話し合う。 また、良かったこと、まだ工夫できそうなこと、上手く いかなければ次はどうしてみる？等も検討していく。
17	日々の支援に関して正しく記録をとるこ とを徹底し、支援の検証・改善につなげ ている	100%			毎日必ず個別記録をパ ソコンで入力してい る。様子に加えて、具 体的な声掛けや支援方 法等も記録し、後から でも振り返ることがで きるようにしている。	支援する場面や課題行動に対する支援者のアプローチ 等、今後の支援に繋げることができるよう、記録の残し 方等についても引き続き検証していく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判 断している	100%			6か月ごとの見直し (モニタリング)を行 い、利用児のその時の 状態や状況、課題に 合った内容で作成し直 している。送迎時等に 家庭からも聞き取りを 行っている。	利用児の成長と共に、モニタリングをより深めていくよ うにする。その際、「今その子に何が必要なのか？」と いうことを全職員で意見を出して合って検証していく。 深掘していくと同時に、個々の特性についてもさらに認 識を深めていくよう努める。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組 み合わせて支援を行っている	100%			ガイドラインを全職員 に周知し、回覧してい る。また、いつでもす ぐに見直しができるよ うにわかりやすい場所 に置いている。	ガイドラインの項目は全職員で周知して踏まえている が、地域支援の提供については工夫等が十分にできてお らず課題である。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	100%			児童発達管理責任者が 原則出席するようにし ているが、状況に応じ て、療育現場で主に関 わっている職員が、あ るいは複数で出席す るようにしている。	状況や内容に応じて精通した職員が参画しているが、他 職員からも情報を聞き取ったり個別支援記録を読み返す 等してより詳細な様子を伝え、本児の状態を共有するよ うに努める。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			送迎時や電話連絡等で必ず確認するようしている。また、送迎時のトラブルについても適宜報告・連絡を管理者にできるようにしている。また、保育所等訪問支援を通して、情報共有を行っている。	支援会議・担当者会議・保育所等訪問支援等にて情報共有を行っている。今後も学校と連携しながら丁寧な情報共有に努め、利用児の実態に即した支援を提供していく。必要に応じて学校の先生にも放デイ利用時の様子を直接みてもらう機会もあった為今後も継続していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	87%		13%	現在対象児はいないが、医療ケア児の状況を確認し、必要に応じて主治医と連携をとりながら対応していく事を保護者にも確認して進めていくことができるよう検討中である。	現在、医療的ケアが必要な子どもは契約していないが、利用の際には当法人の看護師チームにも相談しながら取り組みたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%			就学前の年は特に家庭や園との情報共有に努め、必要に応じて支援会議を設定。事前に各関係機関と情報共有会議を行ったり、送迎時に話をする等相互理解に努めている。	支援会議等を設定することで当事業所での様子だけでなく他事業所や園等の様子もつかえ、よりよい支援を提供できるよう努める。情報共有会議の開催時期が遅れないようにする等状況を見極めて早めの対応を心がける。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%			移行前の担当者会議で情報共有を徹底→連携することでスムーズな移行に取り組むことができている。	移行した後も気になること等あればいつでも連絡が取れるよう、関係機関同士の関係作りもしっかり行っていく。利用児の進路状況に応じて情報共有していくことを心がけるが、伝達時期も考慮する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			必要に応じて関係機関と連絡を取り合ったり、支援会議等に参加することで情報共有や意見交換をし、統一した支援の提供に努めている。	相談支援事業所や発達障がい者支援センター等への相談、SV派遣の利用等から助言をもらったり、講師として来園してもらっての研修開催を行っている。今後も継続していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	25%	63%	12%	直接関わる機会はなかったが、祭り等地域の行事に参加する機会を設けている。公共のプール等に出掛ける際は挨拶を交わしたり、一緒に遊びを楽しむ場面もあった。	感染症拡大防止の観点から法人祭り等直接的な地域間交流の機会はできていない。今後は状況に応じて地域の関係施設等と交流ができるような形を検討していきたいと思う。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	50%	25%	25%	案内のある自立支援協議会等の研修には、参加するようにしている。また、法人他事業所とも連携して情報共有している。	現段階では、地域の自立支援協議会会議には参加できていないが、会議に参加している当法人他事業所から福祉情報を得るようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			送迎時や個別面談等を通して、利用児の状況について共通理解を持つようになっている。	送迎時にゆっくり話ができない場合は後程連絡して状況をお伝えして共通理解を図っている。気になることがある時はいつでも連絡しやすい関係作りに努め、いただいた内容については迅速に臨機応変に対応するよう心がけている。必要に応じて他事業所や相談支援事業所とも連絡を取り、連携していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	87%		12%	年1回の保護者会では互いに話をしたり情報共有を行う等大切にしている。家庭から相談があった際等に随時支援を行い、一緒に考えたり支援方法を伝えたりしている。	ペアレント・トレーニングやピアカウンセリングを視野に保護者会開催などに取り組んでいるが、ペアプログラムを学んだ職員もいる為今後はそのことも活かしていきたいよう検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%			利用契約時にゆっくりと時間をとり、わかりやすく丁寧に説明している。口頭説明だけでなく、実際に事業所を見学してもらったりパンフレットを見てもらう等して確認してもらっている。	運営規程や利用者負担等については、その内容に変更がある場合は都度迅速にお伝えしている。支援の内容については自宅等での様子や対応も踏まえてその方法を検討する等話し合っているため今後もそのようにしていく。家庭からの質問等には丁寧に説明を行い、要望等に応じられない場合でも理由を添えて理解していただけるよう真摯に対応していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			児童発達管理責任者や主任保育士を中心に、保護者の相談に応じ、保護者の不安を軽減できるように取り組んでいる。	子育ての悩みについては、まずはゆっくり話を聴き、具体的なアドバイスを伝えたり対応可能な方法を一緒に考える等しながら可能な限り迅速に対応していく。必要に応じて臨床心理士との面談設定や専門機関を紹介する等対応する。職員と保護者との関係性を大切にして、話しやすい環境を整える等今後も心がけていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	87%	13%		毎年、保護者会を開催し、保護者同士の交流が図れる機会を設けている。今年度は12月に実施した。	保護者会を通して保護者同士が関係を作ったり交流出来たら良いと思っているので、今後も開催を継続したい（感染症拡大の状況もみながら）。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			利用契約時に苦情解決に関する説明を行っている。法人や事業所として、苦情があった場合の体制も整えている。療育に関するニーズについては職員間で検討し、保護者の了解を得た後対応している。	これまで大きな苦情をいただいたことはないが、家庭からの話はいつでも真摯に受け止め、検討を重ねて迅速対応に努めてきた。今後もより質の高い支援の提供ができるよう、やりとりしながら良い関係を築いていけるよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			毎月園だよりを発行し、コドモンでの発信も行っている。園での過ごし方や活動の様子を写真で伝えている。	楽しみにしてくれている利用児や保護者もたくさんいるので、今後も継続する。また、より詳しく多くの子どもたちの様子が伝えられるよう、動画の活動等も検討していきたい。
	35	個人情報に十分注意している	100%			個人情報の取り扱いについては、利用契約時に同意書を交わし、その都度保護者に確認しながら取り組んでいる。また、書類は施錠付きの棚に収納している。	個人情報となる内容に相当するかを全職員で検討しながら今後も十分注意していきたいと考える。
36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			利用児の特性に応じて、絵カードやスケジュールボード、写真や動画等を活用している。	保護者との意思の疎通や情報伝達に関しては、電話や面談等直接お伝えして捉え違いやズレ等を防ぐよう努めている。より詳細な内容については、難しい言葉や専門用語等は使わずわかりやすい言葉で伝える等今後もより丁寧な対応をしていきたいと考える。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	37%	63%		地域の行事やお祭りに参加したり、地域資源を利用する等して交流できる機会を設けるようにしている。	事業所自体に地域住民を招待するところまではできていない。小さな行事でもできることはないか？等検討・工夫していきたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	87%	13%		各マニュアルは保護者会で説明を行い周知している。新規利用の方には契約時に説明している。	今後も保護者会等を通して丁寧な説明を継続し、避難訓練も実態に即して工夫しながら取り組んでいく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	87%	13%		年2回実施している。備蓄品の準備もしている。消防点検もきちんと行い、整備できている。	避難訓練を実施しているが子どもによっては嫌な体験として負担をかけてしまうことがあるため、配慮・工夫しながら今後も継続する。紙芝居を用いて説明する等視覚支援を用いてわかりやすく伝え、避難行動がスムーズに行えるようにしたい。保護者への周知不足については検討して改善していきたい。職員は、当法人災害訓練研修にも参加して、必要な知識と技術を身につけるようにしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			虐待防止チェックシートを年3回実施し、日常の支援の振り返りを行っている。法人内研修や事業所内研修で虐待防止や身体拘束に関する研修を開催している。	虐待チェックシートについては各職員の結果を踏まえて職員会議で支援を見直し、より適切な支援の提供に繋げていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			安全面での配慮について、放課後等デイサービス支援計画に記載。内容について保護者に説明して同意を得ている。	身体拘束についての考え方（3要件など）については、常に職員間で確認しているが、どのように対応するのがよいか今後もより慎重に検討していく。パニック時の対応については個別支援記録に残し、送迎時等で必ず保護者に報告している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			食物アレルギーのある利用児には、利用開始時のアセスメントや面談等で確認する。保護者と密に情報共有やりとりを行い、主治医の指示に基づいて対応している。	食べ物を提供する時は毎回食物アレルギーがある子どもについて確認するようにしているが、食材の成分等の確認もきちんと行っていく。また、本児にもわかりやすく説明を行い、理解してもらうよう努めていく。相談や知識については法人看護師と連携しながら取り組んでいきたい。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			事例が起こった場合は報告書の提出と業務日誌への記録記入することで、職員間で共有している。ミーティングや職員会議でも確認し、同じことがないよう努めている。	ヒヤリハットがあった場合報告書を提出してもらうが、会議での振り返りをより綿密にしていきたい。また、時間の経過とともに忘れてしまうことも少なくない為毎朝のミーティングでは気をつけることや対応をしっかりと確認してその日の支援にあたることを継続する。	